

概要版

美ら島づくり花の森整備事業
基本構想・基本計画

【 慶留間区 】

平成 25 年 3 月

座間味村役場 総務課
株式会社 トロピカル・グリーン設計

目 次

1章 基本構想	1
1. 上位・関連計画.....	1
2. 基本方針の策定.....	2
3. 具体的な整備方針	3
4. 基本構想図の作成	5
5. 各候補地の整備メニュー.....	6
2章 基本計画	7
1. 整備内容.....	7
2. 年次事業計画の作成.....	17
参考資料	18
1. アンケート	18
2. ヒアリング	20

1章 基本構想

1. 上位・関連計画

当計画に関する上位計画や関連計画を整理した。

■表 上位関連計画と関連する主な内容

	図書・報告書名/発行年月日	当整備事業に関連する主な内容
上位計画	座間味村第四次総合計画 平成 24 年 4 月 発行:座間味村役場 編集:座間味村、総務課	豊かな地域資源が永遠に守られ、人と自然環境が共生する『楽園』 村民が住み心地の良い村、観光客が又訪れたい村づくり 環境の保全ー美しい自然と生活が共生する村づくり ・花木を活用した全島緑化 地域環境美化支援事業の強化や、ボランティア事業の推進と 1 世帯 1 鉢運動の検討 ・モクマオウ等在来種を脅かす外来植物の駆除 外来植物の繁殖実態調査の実施し対策を講じる ・みどりの島から花の島へ 【阿 真 区】:サクラの植栽による桜並木 【座間味区】:高月山にケラマツツジ 【阿 佐 区】:久岳林道にエゴの並木 【阿 嘉 区】:ケラマツツジとイジュ 【慶留間区】:ケラマツツジとイジュ 野鳥やチョウのみられる林の中の遊歩道、散策道、撮影ポイントを 設ける(景観の障害となる樹木等の伐採)
	緑の美ら島づくり行動計画 平成 24 年 3 月 沖縄県農林水産部森林緑地課	100 年先を見据えた「緑の美ら島」の創世を目標に 「365 日花と緑と香りいっぱいの沖縄」づくりを展開している 「緑の美ら島の創生をめざして」 「生命あふれる緑の美ら島づくり」 「活力ある緑の美ら島づくり」 「沖縄らしい緑の美ら島づくり」 上記、4 つの目標を掲げ県土の緑化の推進のために策定
関連計画	座間味村鳥獣被害計画書 座間味村役場 産業振興課	鳥獣被害防止特措法に基づく鳥獣被害防止計画 沖縄県と事業の調整中 ケラマジカの対策(天然記念物のため駆除できない) ハシブトガラス、イノシシの駆除
	平成 24 年度阿佐地区避難道路 整備工事	津波時の避難路の整備事業 実施設計終了、H25 年度工事予定
	座間味村外来植物討伐事業	平成 23 年度から 10 年間、モクマオウの伐採を行う

2. 基本方針の策定

集落内の美化が求められている（観光客の目線）

住民が気づかない集落の景観が、観光客に評価が高いため、花で彩りをもたらすことによって美化の向上を図る事となり、訪問者の増加に繋がる。

特産品となり得る植物を増やす

ヤマモモ、パパイヤ、グアバ、シークァーサーなどの植物を増やすことにより将来特産品となる可能性が増す。（特産品は、知名度などからも一定程度の量が必要）

管理体制の構築—主体と責任を明確にする、リーダーの育成

職業など立場の異なる住民が参加しやすいグループづくり
 現在、リーダーとなる人材はいるが、将来を見据え新たなリーダーの発掘と育成を事業として立ち上げサポートしていく必要がある。

景勝地や展望台などへの誘導を草花緑化により行う

景勝地や展望台といった場所（点）を沿道植栽（線）等で結ぶ

圧倒的なボリューム(量)や延長で名所を生み出す

伊江島のユリ、中城のヒマワリのように圧倒的な量、八重岳のヒカンザクラのように一定以上の延長が価値を生み出す。

■写真 先進事例写真

伊江島のユリ	北中城のヒマワリ	本部町八重岳ヒカンザクラ
		
<p>自治体を中心となり、村をあげて活動しており、毎年数万人が訪れる。</p>	<p>緑肥と雑草抑制のために植えたのがきっかけで毎年規模が大きくなっている。</p>	<p>線(延長)としての整備事例 開花期には交通規制をして花を楽しんでいる。</p>

3. 具体的な整備方針

1) 植物を使った島おこし

- ① 集落内を花で彩る－楽しみながら暮らせる生活環境をつくる

各戸の庭や路地の空き地などに草花を定期的に植えつける
 〈例〉季節毎に、年4回の植え替え－植替用の草花の苗が必要

- ② フルーツアイランド

シークァーサー、タンカン、ヤマモモ等の果樹を植林し
 ホエールウォッチングやサクラ祭りに加えてミカン狩りを行う
 〈例〉計画的に果樹を増やす当初は農業ではなく観光資源とする
 －定期的に植林を行うための果樹の苗木が必要
 －植林もこれまで通りイベントとして行う

- ③ モクマオウの伐採

外来植物討伐事業で今後10年モクマオウの伐採ガラの有効活用
 〈例〉炭づくり－村内のバーベキューで活用
 キャンプ場で、各種イベント時のキャンプファイヤーの燃料として活用
 する

2) 養蜂－座間味のはち蜜

花粉媒介者としてミツバチの導入

上項により、草花や果樹が増える事を見据え、養蜂を検討する。採蜜を行うだけでなく、ミツバチがポリネーター(花粉媒介者)として活動することにより果樹の収量も増やす事が期待できる。

3) 苗木生産

生産拠点の整備－(別事業：産業振興課－補助事業や、既存施設の補修活用)
 雇用の創出を目的とした事業展開を図る。

- ① 草花の苗木生産

(仮)集落美化事業一年4回各地区で草花の植え替え作業を行う。
 〈例えば〉観光誘致のための予算を確保し、苗を購入して配布する。

- ② 果樹の生産

フルーツアイランドに向け、計画的に定期的に果樹の苗木を生産し植林する。

- ③ 島野菜の苗木(種)生産

村外から入手していた種や苗を生産して農家に販売する。

- ④ 特殊樹(ブランド樹)の生産

村内の緑化には、慶良間で育てたケラマツツジを使用する。
 また、ブランド化することにより付加価値を付けて出荷する(海運の費用を補助)
 ケラマツツジ等の種の保全も行える。

4) 阿嘉区、慶留間区におけるケラマジカ対策

阿嘉区、慶留間区においては農作物だけでなく、屋敷内外の草花も食害を受ける状況にあることから、長期的には、植林等によりケラマジカ本来の棲息域の餌場環境を良くして人里に近づかないような対策を講じるとともに、短期的には植栽する植物や草花を物理的に被害に遭わないための工夫が必要となる。

5) 外来植物（モクマオウ等）の繁殖調査を実施し伐採等の対策を講じる

モクマオウは、潮風に強く成長が早いことから海岸防風林等に利用されそれらが徐々に増えている。そこで本来、島に生えるフクギ、テリハボク等の植物に替えていく必要がある。伐採したらこれらの苗木を植え、フクギ等の苗木が一定の大きさに達したらモクマオウを伐採するなど計画を立てて実施すべきである。

6) 植栽植物の環境圧に対する確認

植栽される場所は地形の特性上、海岸線からそれほど離れることはなく、台風などの時には潮風が吹き付ける厳しい環境にある。

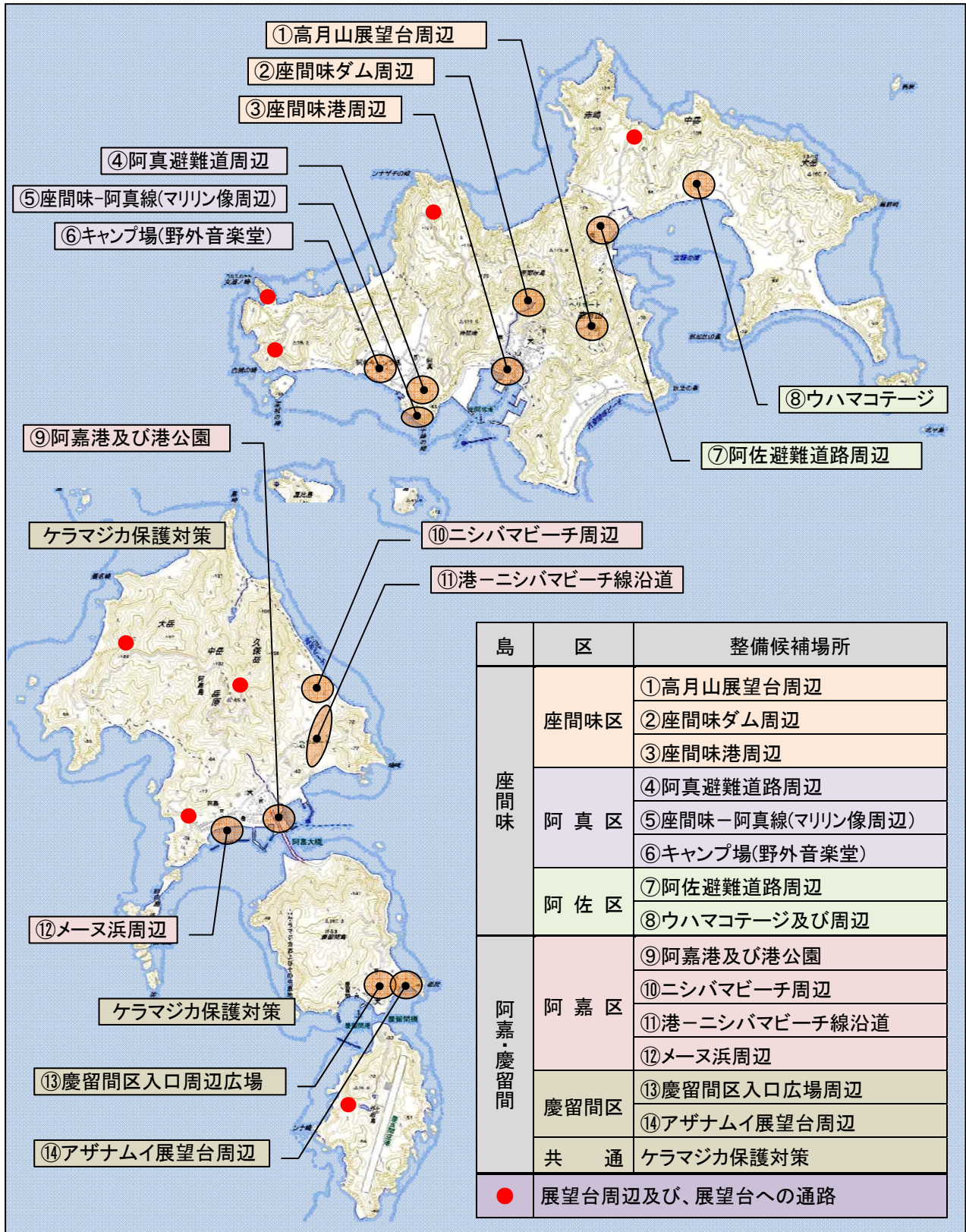
そのため、植栽植物は耐潮風性が強い植物でなければならない。そのため、具体的な場所が決まった場合は、風環境、日照条件、土質を調査し適正な植物を選定しなければならない。

なお、植栽直後は、支柱や仮設の防風ネットなどの設置も必要となる。また、阿嘉区、慶留間区においてはシカの食害にあわぬように対策を講じなければならない

4. 基本構想図の作成

各島、各区の整備候補場所として以下の場所を選出した。

■図 整備候補場所全体図



5. 各候補地の整備メニュー

■表 整備概要－慶留間島

島	区	整備候補場所	整備目標
	慶留間区	⑬慶留間区入口広場周辺	<ul style="list-style-type: none"> ・集落入口部にある広場を緑化し、集落の玄関口を美しく整備する。 ・広場の外周は背の低い花の咲く種を列植し、外周沿いに一定間隔で緑陰樹を植栽して夏でも涼しく遊べる広場とする。
		⑭アザナムイ展望台周辺	<ul style="list-style-type: none"> ・前述の集落入口広場とつながる展望台の周辺を
	共通	⑬ケラマジカ保護区	<ul style="list-style-type: none"> ・植物を活用し、集落から離れた場所にシカの住み良い場所をつくり農作物への被害をコントロールする手助けを目指す。 ・一部では観察できるようにして観光資源として活用する。

■表 整備概要－全域

島	整備候補	整備目標
全域	展望台周辺及び、展望台への沿道緑化	<ul style="list-style-type: none"> ・既存植栽の維持管理を充実させ眺望を楽しむと共に周辺の山の植物や草花を楽しめる場所とする。 ・枯損部に補植を行う(環境に応じた樹種選定) ・入口部や駐車場周辺を花木で彩ると共に緑陰を確保するための緑陰樹を新植する。
	サイン(案内板)整備	<ul style="list-style-type: none"> ・当事業により魅力を増した花の名所や村内の史跡名所や展望台などの情報を観光客に伝えるための情報発信の一つとして村内全域のサイン(案内板)を整備する。
	ガイドマップ作成	<ul style="list-style-type: none"> ・上記の案内板と連動した、5 区のガイドマップを作成し各地区の魅力を伝える。

2章 基本計画

1. 整備内容

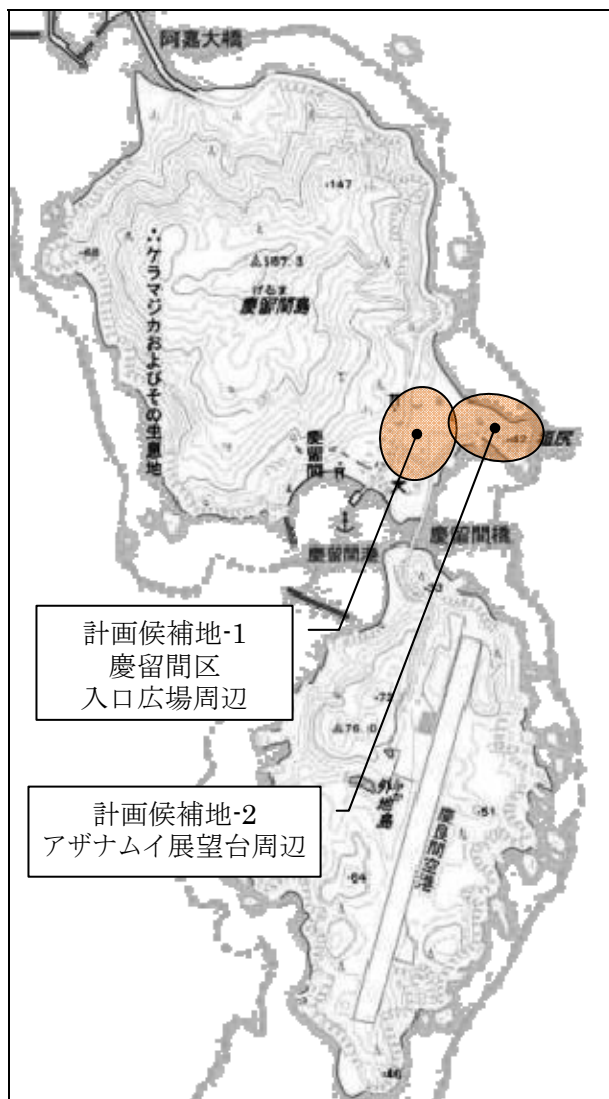
① 候補地-1 慶留間区入口広場周辺

慶留間区の集落入口部の広場を花や緑で修景し集落の玄関としてふさわしい景観を創出する。

① 候補地-2 アザナムイ展望台付近

上記集落入口部広場から続く展望所で、展望休憩舎、遊歩道が整備されており北側は阿嘉島に入港するフェリーを眺めることができる。また、南側は慶留間橋を眺望することができる。

■図 計画候補位置図



① 慶留間区 慶留間区入口広場周辺

1) 現況

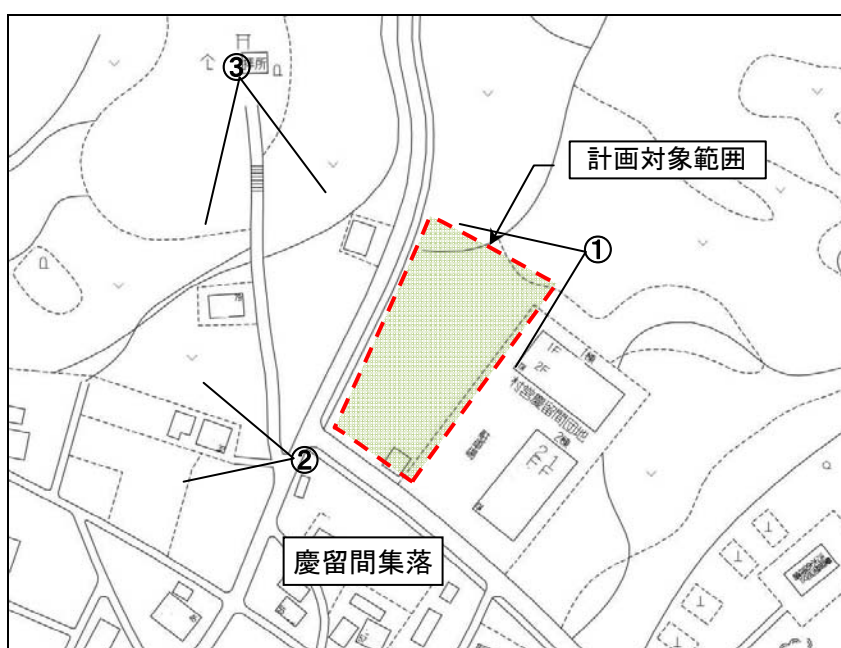
① 風

- ・北面に山を背負っているため、冬季季節風の影響は少ない。しかし周りを海に囲まれているため、台風時には潮風を受ける場所である。

② 日照

- ・基本的に日照は十分である。

■図 平面図



■写真 現況写真

写真①



・芝生広場があり、休憩舎が設置されている。

■写真 現況写真

写真②	写真③
 <p data-bbox="220 757 767 790">・集落にはフクギの屋敷林が見られる。</p>	 <p data-bbox="809 757 1356 790">・拝所から集落入口部。</p>

2) 具体的な整備内容

1. 広場周辺の植栽

- ・広場周辺の中低木による修景緑化と、緑陰をつくる高木植栽を行う。

■写真 現況



■イメージ写真



② 慶留間区 アザナムイ展望台周辺

1) 現況

① 風

- ・展望台周辺や園路は周辺に自生しているアダンにより抑えられているが冬季季節風を受ける場所である。

② 日照

- ・基本的に日照は十分であり植物の生育には問題なし。

③ その他

- ・ケラマジカによる食害がある。付近で頻繁に目撃されている。

■図 平面図



■写真 現況写真

写真① 展望台	写真② 展望台から外地島
 <p>・展望台正面東側が最も高くなっておりアダンの森となっている。北側と南側の眺望が美しい。</p>	 <p>・慶留間橋が見渡せる。</p>

2) 具体的な整備内容

1. 展望広場周辺の修景植栽

- ・展望広場外周部に耐潮風性のある低木を植栽し自生アダンとの境界線を明確にする。
- ・耐潮性のある低木の内側に、花の咲く低木を植栽する。
- ・展望休憩舎の広場に、球根性の草花を植栽する。

植栽候補樹種

外周低木：ブツウゲ、オキナワシャリンバイ、テリハクサトベラ、etc

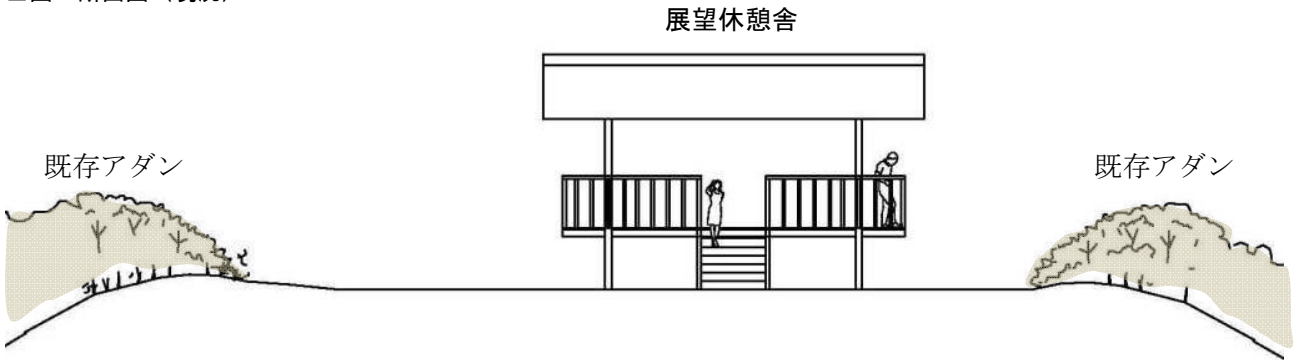
修景低木：ケラマツツジ、サンダンカ、タイワンレンギョウ etc

球根類：ユリ、アマリリス、ヒガンバナ(ショウキズイセン)、etc

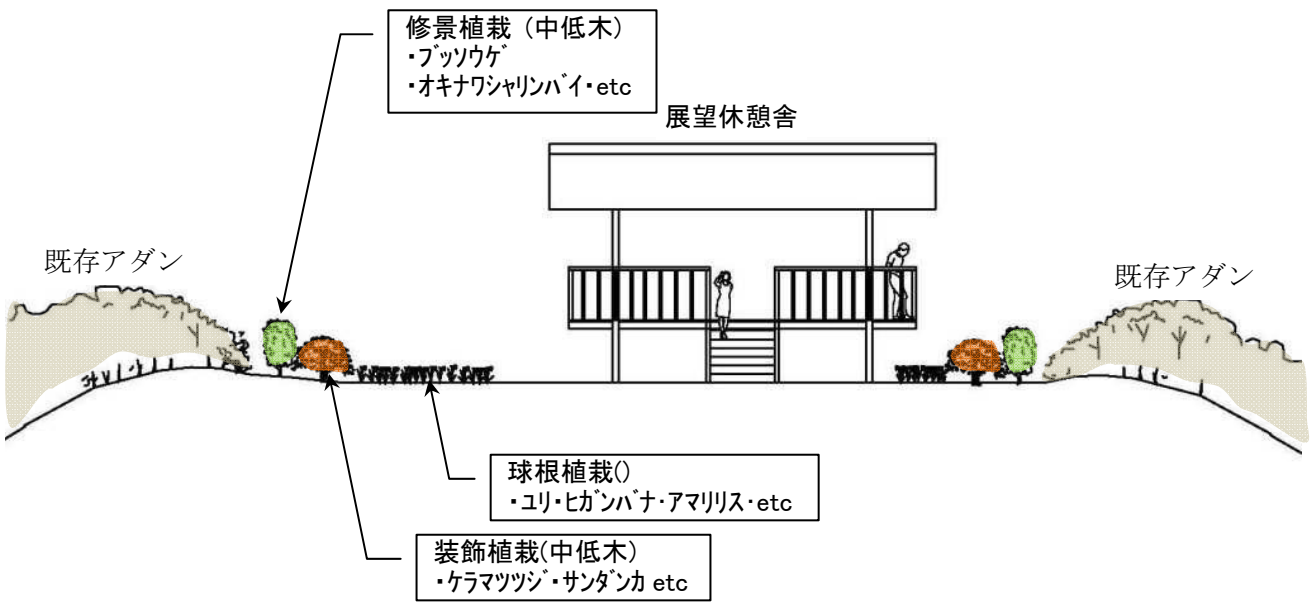
2. 園路沿いの低木植栽と裸地部の地被植栽

- ・展望広場同様、耐潮性のある低木の植栽により自生アダン殿境界を明確にする。
- ・遊歩道沿いの斜面の裸地部に地被植物を植栽する。

■図 断面図 (現況)



■図 断面図 (計画)



③ 慶留間区 ケラマジカ対策

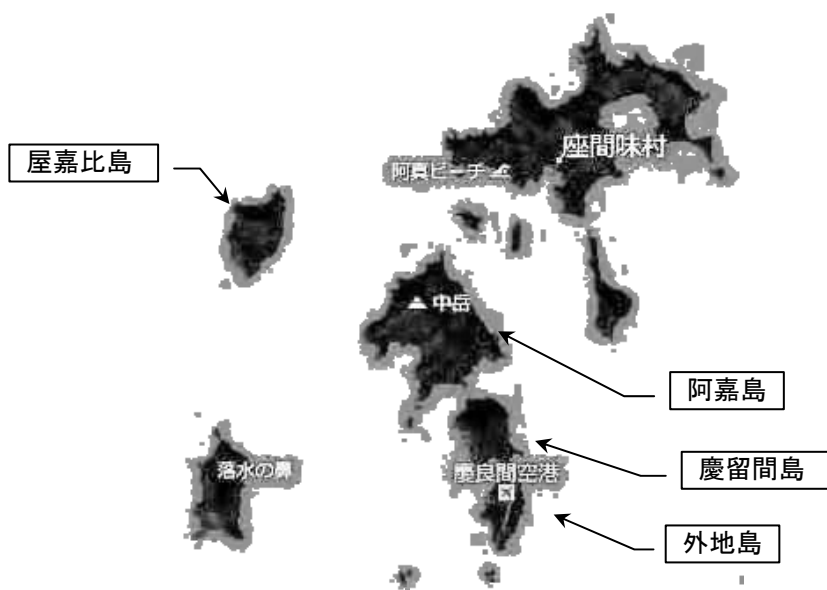
1) 座間味のケラマジカの歴史と分布

① 歴史

- ・ケラマジカは、今から約 400 年前に薩摩より移入されたものが定着したと考えられている。
- ・大正 10 年前後、農業被害がひどくなったため猟銃や、猟犬により駆除した。
- ・座間味島のケラマジカは狩猟や、米軍の演習で取り尽くされた。
- ・阿嘉島には棲息が確認されていなかったが、海岸から上陸し山を荒らしはじめた。
- ・慶留間島では昭和 46、47 年に農業被害が拡大し 48、49 年に大規模な防護柵が設置された。
- ・1955 年に琉球政府の天然記念物に指定された。
- ・屋嘉比島では戦前は鹿の保護地域であった（政府よりイモの補助があった）が戦時に米軍の艦砲射撃でなくなった。

② 分布

- ・ケラマジカが現在分布しているのは阿嘉島、慶留間島、屋嘉比島、外地島の 4 島である。



2) ケラマジカの調査状況

- ・ケラマジカの調査は、1992年度より文化庁・沖縄県教育委員会・座間味村の委託により調査が行われた。
- ・また、屋嘉比島の動物を中心とした生態系調査－世界自然保護基金日本委員会の助成により実施されている。
- ・全体での個体数は、1995年に230頭前後、2005年には120頭前後と10年で半減している。

■表 ケラマジカの調査実施年と個体数

島	調査年	頭数	備考
外地島	1995年	10頭前後	
	2005年	10頭前後	
慶留間島	1995年	47頭	
	2005年	30頭	
屋嘉比島	1995年	46頭	
	2003年	13頭	
	2005年	—	天候不良で調査無し
阿嘉島	1995年	130頭	
	1997年	148頭	
	2000年	89頭	
	その後	70頭前後	
全体	1995年	230頭前後	
	2005年	120頭前後	10年で半減

3) ケラマジカの生態と花の森整備に関する課題

① 生態

- ・本来鹿は草原を棲息域としているが、慶良間諸島では草原が狭く少ないことから、林内で生活している。
- ・ケラマジカは良質の植物を選択的に少量採食するCS (Concentrate Selector) 型の食性型を持ちススキやカヤなどに見られる食痕も植物体の一部に限られる。
- ・集落近くの公園や道路の裏面に植栽された芝生が餌場となってシカの集中を招いており、島内のシカの分布が変化し、集落付近へのシカの定着の原因となっている。
- ・また、近年島内の植生もススキ、アブラガヤが繁茂したり、元来急峻な地形であるため様々な原因で斜面が崩落して裸地化したりして餌資源が減少している。

■ケラマジカが好きな(食する)植物、好まない植物

好きな(食する)植物	好まない植物
・芝生・クワノキ・ハイビスカス・マメ科全般	・クロツグ・モンパノキ・テリハクサトベラ(若葉は食べられる)・リュウキュウマツ・アダン・ススキ・ランタナ・ゲットウ・etc

② 課題として

- ・良質の植物を少量採取するが、ススキやアブラガヤ、アダン等の増加により良質の餌場が減少しているため、山地、林内にシカの餌となる植物を増やす必要がある。
- ・集落付近に植栽された芝生地などがシカの餌場として、定着させる原因となっているため、集落付近で植栽する場合樹種の選定を十分検討する必要がある。

4) ケラマジカの対策案

① 長期的な対策

- ・山地、林内にシカの餌となる植物(マメ科の植物)を植林する。
- ・休耕田や休畑に繁茂するススキやアブラガヤを伐採除去し、ケラマジカの餌となる植物を植栽する。
- ・同時に恒久的な水場を整備する。
- ・集落付近の植栽樹種をシカが食さない樹種に変更して、集落付近には餌は少ないと思わせる。

② 短期的な対策

- ・集落付近の植栽植物でシカが食する植物(特にシカが集まる場所)に防護柵などを設置しシカの定着を無くする。
- ・植栽設計の際には原則として、シカが食さない植物を選定する。
- ・コンテナ(プランター)等を設置する場合は、シカが食べられないデザインとしたり、設置場所を考慮する。

3. 整備主要箇所イメージパース

■整備イメージパース（スケッチ、イメージモンタージュ）

慶留間区入口広場



- 集落入口部にある広場を緑化し、集落の玄関口を花とみどりで飾る。
- 広場の外周は背の低い花の咲く種を列植する。
- 外周沿いは一定間隔で緑陰樹を植栽して夏でも涼しく遊べる広場とする。

2. 年次事業計画の作成

事業を進めるに当たり、各区の要望や関連する道路整備状況などを考慮し、下表の順序で整備を行うこととする。

■表 年次事業計画

年度	設 計	工 事	苗木生産
25	座間味島(3区)の実施設計	—	
	苗木生産の支援	阿真区整備工事	準備(体制確保) 生産開始
26	阿嘉・慶留間島(2区)の実施設計	阿佐区整備工事 座間味区整備工事	整備工事にあわせて 随時生産
27	村全域サイン計画・設計 ガイドマップ作成	阿嘉区整備工事 慶留間区整備工事	同上
28	—	座間味村サイン計画	

参考資料

1. アンケート

【座間味村全体】

■回答者について

結果	<ul style="list-style-type: none">・親と子、夫婦、一人暮らしの割合が高い。・70代以上が一番多く、50代以上が30%を占めている。・観光業が40%を占めていることから、地区全体が観光業で成り立っているといえる。・観光業の中でも、レジャー業が半数近くを占め、続いて宿泊業が多い。
考察	→観光業を営む住民、高齢者を巻きこんだ事業展開が求められる。

■座間味村について

結果	<ul style="list-style-type: none">・しまと海の風景が良いとの回答が最も多く、続いて祭り・イベント、村民とのふれあいとなっている。・村民とのふれあいも観光客にとっては来る理由の1つであると考えている村民が多い。・南国の森や集落の風景は、観光客の目的でないと考えている。・約90%以上の方が花や緑をふやしたい、今あるものをきれいにした方が良いと考えており、花や緑への関心が高い。
考察	<ul style="list-style-type: none">→しまと海の風景が良いと回答が多いが、多くの村民が集落の風景が良いとは思っていないことから、花と緑による集落の風景づくりが求められる。→しまと海の風景、村民とのふれあいが観光の目的であると回答が多いので、ふれあう事の多い集落内の美観を向上させることが求められる。→村民が行動出来るような計画が求められる。→本事業は村民の期待に応える意味でも必要性が高い。

■管理について

結果	<ul style="list-style-type: none">・A問3の結果を踏まえると半数以上が花や緑はあるべきだと考えているが、行動出来ていないのが現状である。・その他(機会や場所が無く、やりたくても出来ない状態)という意見が多い。・花や緑に対する知識不足も出来ない理由として挙げられた。・時間が無いとの回答もあり、夏場の観光シーズンでは人手不足になる恐れがあると考えられる。・40%以上が地域の風景が良くなると感じている。・地域の魅力向上とともに観光客増加も期待している。・最も多かった要望は植物を配ってもらいたいことである。
考察	<ul style="list-style-type: none">→参加意思はあるものの、参加の機会や場所の提供がないのが実情であることから、花や緑を植えて育てる機会を作ること、場所の確保、管理体制を整える必要がある。→地域全体の美意識を高められる管理体制を整える必要がある。

■まとめ

<ul style="list-style-type: none">→管理体制の構築が求められる。→年間を通して花が観賞できる植栽計画による明るいイメージ作りが求められる。→観光地としての重要性が高いことから、スポット的な美観を向上する必要がある。
--

【慶留間区】

■回答者について

結果	<ul style="list-style-type: none"> ・一人暮らし、親と子の家族の割合が高い。 ・30代が一番多く、続いて50代60代となっている。 ・公務員が一番多く、次に観光業である。 ・観光業の中でも、レジャー業が半分を占めている。
考察	→観光業を営む住民を巻き込んだ事業展開が求められる。

■座間味村について

結果	<ul style="list-style-type: none"> ・しまと海の風景、村民とのふれあい、良い所であると考えている。 ・集落の風景、祭り・イベントも観光客にとっては来る理由の1つであると考えている村民が多い。 ・80%以上の方が花と緑をもっと増やしたい、今ある花と緑をきれいにした方が良いと考えており、花や緑への関心が高い。
考察	→しまと海の風景、村民とのふれあい、集落の風景が観光の目的であると回答が多いので、ふれあう機会の多い集落内の美観を向上させることが求められる。

■慶留間区について

結果	<ul style="list-style-type: none"> ・集落内、周辺が最も回答が多かった。 ・ケラマツツジ、ハイビスカス、テッポウユリの回答が多かった。 ・ケラマジカに食べられない花木、潮風に強い植物などの回答もあった。 ・農作物や植物への被害を無くして欲しいという回答が最も多かった。 ・観光資源としていかしたいとの回答も続いて多かった。
考察	<p>→島全体を通して、花や緑を植えたいという要望が見える。特に集落内、周辺など観光客の目にしやすい場所への希望が多く、観光客を意識した樹種・植栽箇所の抽出が求められている。</p> <p>→ケラマジカによる被害は生活に支障をきたすほど深刻であると考えられることから、早急に対策の必要があると考える。</p>

■管理について

結果	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の土地以外の場所では育てていない人が90%以上を占めた。 ・ケラマジカによる被害の回答が多かった。 ・これから参加する意思としては60%以上の回答があった。 ・地域の風景がよくなると感じる回答が最も多かった。 ・経済的支援をしてほしいとの回答が最も多かった。
考察	<p>→参加意思はあるものの、ケラマジカによる被害、場所が無い等が実情であることから、ケラマジカの被害のない樹種の選定、花や緑を植えられる場所の確保、管理体制を整えることが必要である。</p> <p>→地域全体の美意識を高められる計画が求められる。</p>

■まとめ

<ul style="list-style-type: none"> →ケラマジカによる被害の対策が求められる。 →ケラマジカが食さない樹種の選定が求められる。 →年間を通して花が観賞出来る植栽計画が求められる。

2. ヒアリング

ヒアリングの結果以下のような住民の声や思い、要望があった。

【座間味村 全域】

- 昔から各展望台にいたる沿道や展望台周辺には、ケラマツツジ、サクラなどを植栽しており、きれいに咲いた時期もあった。
- 昔は、カツオを蒸すために松の木を燃料として使っていたので松の木を造林していた、他にイヌノキなども植えていた。
- 最近では、山道を散策する人も増えており、散策路の整備も重要である。
- H15～18年頃にも「花の森構想」があったが実現しなかった経緯がある。
- ツツジをもっと村外にアピールしてほしい。
- 島に植栽チームをつくって活動してほしい、特にまとめ役となるリーダーが必要。
- 案内板が不十分である。、村全体で統一感を持ってつくられると良いと思っている。
- カラスが、グアバやシークァーサーなどの果樹を食害するので駆除してほしい。
- 集落の中心部は特に建物の統一感があると良いと思う。(ブロック塀を生垣で統一するなどできることから始めれば良いと思う。)
- 集落の中に季節を感じる草花がたくさん植えられると良い。
- 冬場はやや時間があるので、植栽管理など地域のボランティア活動などには積極的に参加したい。
- 植栽した植物が定着するまでの水やりなどのフォローをしっかりと行ってほしい、例えば、水をかける時の取水場の提供や、その料金負担などしっかり考えてほしい。
- 道路の植栽管理などを、区ごとに競わせ良いところに表彰しても良いのではないかな。
- 植樹する樹木をオーナー制にして管理してもらおう方法も良いのではないかな。個人だけでなく団体でも良いと思う。
- 管理体制を続けられる仕組みにしてほしい。例えば村の担当もすぐに変わりそこでとぎれてしまう事が多いので継続できる仕組みを考えてほしい。
- 植栽材料はできる限り、村外から持ち込まず地元で生産した材料を使って植樹してほしい。
- 資料館を設置し、慶良間諸島固有のケラマジカについて展示したり、ツツジ園、ヤマモモ園などのミニ植物園などの整備ができれば良いと思う。

【阿嘉区・慶留間区 共通】ケラマジカについて

- ・ハシブトガラスがアダンの実を山中に運び、アダンが繁殖しケラマジカが棲息しにくくなり集落付近に下りてきていると言われている。
- ・シカ用のフェンスも多くの箇所では壊れているので、再整備してシカとの境界をはっきりさせた方がよい。
- ・屋敷内の野菜や草花もシカに食べられるので、被害を防ぐために、金網で囲ったり、ネットで覆ったりしている。
- ・基本的に、ケラマジカは臭いが強い樹木を食べないようだ。(イワザンショウ、ハマゴウ、アザミ、アメリカンブルー、セイロンベンケイ、ランタナ等)
- ・オオバナアリアケカズラなどはシカが食べないのでそういう樹木を増やしたら良いと思う。
- ・農作物や草花の食害の他にも、シカの被害として、公園などでシカの糞を小さい子供が口に入れてしまう事もあった。
- ・シカを観光資源として活用する事も考えるべき。夜になるとシカの見られる場所を観光客は見物に出かけている。
- ・山中にシカの餌となる植物を植えて、シカを山に戻す努力をしたら良いと思う。

【慶留間区】

- ・青い海とフクギの緑に映えるような鮮やかな色の花を植え増やしてほしい。
- ・昔ながらの赤瓦の家が少なくなっており、それらの家を撤去する際に建設機械の出入口が必要のため昔ながらの石垣も壊されて減っており、集落の景観が壊れている。
- ・歴史的、伝統的な価値のある赤瓦、石垣などは県や村に働きかけ補助などを受けて残していけるようにしなければ集落のすばらしい風景が無くなってしまうと思う。
- ・花と緑が綺麗なところはたくさんあると思うので地域で協力して管理を継続して行えば良いと思う。